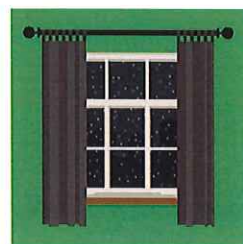


## トピックス

## 暖房器具の選び方

暖房器具にはいろいろな種類がありますが、暖め方で分けると図のようになります。

暖め方	暖房器具	メリット&デメリット
部屋全体に温風を送る (メイン)	エアコン、ファンヒーター	省エネ効率が高いが、乾燥しやすく足元が冷える傾向
赤外線で暖める (メイン)	床暖房、赤外線ヒーター、オイルヒーター	空気が汚れず優しい暖かさが魅力だが、電気代は高くなりやすい
接触して暖める (サブ)	ホットカーペット、こたつ、あんか、膝掛け、カイロ	



部屋全体を暖めるメイン暖房と、ピンポイントで体を温めるサブ暖房を上手に組み合わせて器具を選びましょう。また、冬の夜は外気に触れた窓ガラスは冷たくなり、その窓ガラスに接した空気も冷やされ重くなり、カーテンの下から冷気が吹き降りるのでカーテンは丈の長いものを使うといいでしょう。

### ●換気は対角線上 二つの窓で

引き続き新型コロナウイルス対策として頻繁な換気が必要です。換気では、部屋の対角線上の二つの窓(扉)を開けましょう。また、風の入口より出口の方を大きくし、サーキュレーターで外へ送風すると、比較的短時間で喚起することができます。

### ●加湿器が体感温度を上げる

暖かく感じるかどうかは、室内の湿度も関係しています。大抵、室温は10度を下回らないので、湿度は40~60%に保つと、必要以上の暖房を防ぐことができます。室温が10度より高いと湿度が低いほど寒く感じ、室温が10度より低い場合湿度が高いほど寒く感じます。

## ちよつと紹介

## 川越とサツマイモ



サツマイモ栽培が盛んに行われるようになったのは江戸時代のこと。当時「川越イモ」とは、武蔵野台地の川越藩とそこに隣接する他領の村々で生産されるサツマイモのことを指した。(現在の川越市の他、所沢市、狭山市、新座市、三芳町)

川越地方で初めてサツマイモが栽培された場所は、現在の所沢市南永井。その土地の名主だった吉田弥右衛門さんは、当時のサツマイモ栽培の先進地である上総国志井津村(現在の千葉県市原市椎津)から種イモ200個を取り寄せ、栽培を行なった。これが川越イモのはじまり。

川越にサツマイモのイメージが定着したのは、寛政時代(1700年代末)。このころ江戸では焼イモが大ヒット。理由は、サツマイモが庶民の食べ物では数少ない甘い食べ物で、とても安く手に入ったから。この大ヒットを受け、近郊の村々で江戸向けのサツマイモを栽培し、中でも川越イモは、質がよく最高級品とされていた。また川越は、江戸と新河岸川で結ばれているから、船での運搬に向いていた。このため、たくさんのサツマイモを出荷できたことも大産地となった理由の一つ。

このように質も良く、流通量も多かったことで、天保時代(1830年頃)の書物「諸国名物番付」には、サツマイモの代表産地として川越地方と記載されていた。ここから川越=サツマイモというイメージが定着した。



株式会社パイオニアコミュニティー

TEL.048-476-0260

〒351-0035 埼玉県朝霞市朝志ヶ丘2-12-13

パイオニアコミュニティー

